



干支大絵馬十二支一巡 令和四年壬寅歳 飯塚洋三先生揮毫



発行所
〒010-0946
秋田市川尻総社町14-6
総社神社
<http://sosha-j.jp>

神宮大麻全国頒布
百五十周年を迎えて



総社神社 宮司
川尻 孝紀

神棚に祀られる神宮大麻が全国頒布されるようになったのは明治五年のことです。明治新政府が出来たころの政務は新制度を確立するために様々な分野で試行錯誤がありました。

明治天皇の聖慮により神宮の制度も改正となりました。「神宮及び神社は国家の宗祀にて一人一家の私有にすべきに非ざる」と位置づけられました。神宮・神社は公共性の高い祭りの場所と認識された訳です。

新政府は太政官の中に「神祇省」を設け、神宮の制度も改新されました。幕末まで伊勢の御師が頒布してきた「御祓大麻」を廃止して、御神札は神宮の大宮司をして全国に頒布

することを許可されたのです。

明治五年に神祇省は廃止され国民教化の観点から教部省を設置し、同年六月には「皇太神宮の大麻、神宮司庁より頒布のこと既達、人民をしてよく受けしむべき件」として公布。こうして神宮大麻の頒布は官民挙げて推進されることとなりました。

本年は全国頒布百五十年の節目を迎えました。神社本庁憲章前文には「神祇を崇め、祭祀を重んずるわが民族の伝統は、高天原に事始まり、国史を貫いて不易である」とあります。戦後神社神道は全国ひとつに結集して神社本庁を設立しました。以来神宮大麻は各県神社庁・各神社を通して全国に頒布されて来ました。先人の並々ならぬ努力と思いを感じます。

現代社会は多様な価値観が溢れかえっています。神宮大麻全国頒布百五十年に当たり、今一度先祖が大切に崇め祀ってきた神宮と地域の精神文化を支えてきた氏神様への敬神の精神文化を是非次世代に伝えていきたいと思う次第です。

祭礼行事曆

令和四年元日～令和四年十月

一月

元旦 歳旦祭

青年会新年祈祷

十日 どんと祭(成人の日)

十九日 月次祭

二月

三日 節分祭(神前祭祀のみ)

九日 稲荷神社初午祭

(総社神社にて奉仕)

十一日 紀元祭(建国記念日)

十九日 祈年祭並びに月次祭

三月

十九日 月次祭

四月

九日 第一回境内清掃奉仕

十六日 青年会総会

十七日 ボーイスカウト31団総会

十九日 月次祭

氏子崇敬会総会

三十日 昭和祭・第三十一回

秋田県出身特攻隊招魂祭

五月

六日 総代会総会

十三日 珍寶神社例祭(毘沙門町)

稲荷神社例祭(稲荷町)

十四日 第二回境内清掃奉仕

十八日 春季例祭宵宮祭

十九日 春季例祭当日祭

六月

五日 第二十回秋田県鳶土木

連合会安全祈願祭

十一日 第三回境内清掃奉仕

十九日 月次祭

鹿鳴祭り(神前祈禱のみ)

西表町・毘沙門町・肝煎町

三十日 夏越大祓式(茅の輪潜り)

七月

九日 第四回境内清掃奉仕

十九日 月次祭

二十三 青年会定例会(暑気払い)

八月

六日 第五回境内清掃奉仕

十九日 月次祭

九月

十日 第六回境内清掃奉仕

十一日 観月祭(神前奉仕)

十九日 月次祭



総社神社境内

十月

八日 第七回境内清掃奉仕

十八日 秋季例祭宵宮祭

十九日 秋季例祭当日祭

十一月以降の祭礼行事予定

十一月

十一日 第八回境内清掃奉仕

十五日 七五三参り

十九日 月次祭

下旬 干支大絵馬揮毫

十二月

第一日曜 干支大絵馬奉納式

十九日 月次祭

下旬 煤払い

二十八日 餅つき行事

青年会・敬神婦人会奉仕

大晦日 師走大祓式

★本年も新型コロナウイルス感染症第七波の影響により、神社の祭礼諸行事・諸会議など中止や縮小せざるを得ない状況となりました。

神社では、毎朝日供祭や月次祭において新型コロナウイルス感染症流行の鎮静祈願祭を執り行い一日も早い収束を祈願しております。

★寄進奉納

この度神社本庁定例表彰を受賞された記念として責任役員上村敦様より神前に本坪鈴並びに紅白の鈴の緒を寄進奉納頂きました。



奉納の鈴

上村敦責任役員 神社本庁定例表彰受賞

神社本庁では、毎年、全国登録神社の神職や役員・総代等のうち功績のあった方々を対象に表彰しその功績を顕彰しています。今年は秋田県からは神職二名、役員・総代一名の計三名が表彰されました。役員・総代一名は総社神社の上村敦責任役員です。数少ない貴重な受賞、衷心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

表彰式は、五月二十五日(水)東京の明治記念館で行われました。その表彰式に上村責任役員が出席しましたのでその時の様子等について語って戴きました。



責任役員

上村 敦

表彰式に参列して

私が神社本庁表彰の榮譽に浴するとは夢にも思いませんでした。

総社神社の総代として関わるようになったのが平成十八年ですから今年で十七年目になります。

我が家は神社の南隣にあり、月次祭や町内会行事等で以前から随分長い間お世話になってきた忘れることのできない神社です。

二年後には創祀一千三百年、現地鎮座三百十七年を迎える歴史と伝統のある神社で鎮守の杜として地域の発展に貢献して来られました。その神社に関わってきたことを光栄に思っています。

今回の受賞は、秋田県神社庁との関わりではありましたが、地域の多くの方々の御陰と感謝し、御礼を申し上げます。

表彰式は明治記念館で行われましたが、コロナ感染予防のため受賞者(二百六十二名)と来賓(約四十名)に限定されマスクや消毒を施した上での入館でした。

絨毯の敷かれた広いフロアに間隔を大きく取つての指定席に案内されました。

予定の時刻に出席者が揃ったところで隣室に移動して記念の大集合写真を撮影後、厳かな雰囲気の中で表彰式典が始まりました。

ステージの左右には元皇族の池田厚子神社本庁総裁をはじめ大きく立派なりボンを付けたご来賓が並び、開式が宣言されました。

神宮遙拝の後、国歌斉唱と敬神生活の綱領唱和は声を発生せずに心の中での唱和でした。そのあと総裁式辞に続いて功績表彰、来賓祝辞、謝辞、聖寿萬歳と進行され閉式するという流れでした。

功績表彰では、宮司を対象に功勞牌を呈して「功績状」で顕彰した三つの内容別の表彰と神職及び役員・総代を対象にした「表彰状」の贈呈は、内容別に二回に分けての表彰でした。

どの表彰状にもそして記念品の銀杯、バッチにも皇室の紋章「菊花御紋章」が入っている立派なものでした。

今回受賞を通して学んだことは、

神社は私たちが自然と関わりながら生きていく中で「祈りの場」であることを再認識したことです。有史以来自然災害のない年はなかったと思います。

全国の至る所に約八万社の神社が鎮座しています。(秋田県の登録神社千百十社)それは私たちの祖先は自然物には神が宿っているものと思ひ、災い等が起らないように祈り、社や石碑などを建て祭つてきたのだと思います。私たちはこれからも「祈りの場」を大事に生きていきたいものです。



表彰状

顕彰碑建立 二十周年にあたって



秋田県鳶土木連合会
会長
三上 博志

秋田県鳶土木連合会が平成十四年に創立三十年を迎え、記念事業の一環とし、顕彰碑を建立する事となりました。建立につきましては、総社神社宮司様はじめ氏子の皆様の



鳶土木連合会三十年記念建立の顕彰碑

ご理解とご厚意により敷地を提供いただきました。本当に感謝いたしております。

また、石材店七社のご協力のもと、アイデアを出して頂き、役員との厳正なる審査をもち、建立目的である「創立三十周年という歴史の重み、先代のご功績とこれまでの成果を基盤に、更に二十一世紀に掛ける会員事業所の繁栄と工事の安全を祈願する」に相応しい顕彰碑が出来たと思っております。

毎年六月第一日曜日を安全祈願祭とし、今年で二十回目を迎える事が出来ました。魅力ある鳶を目指し、伝統文化を継承、心意気をそだてながら建設業界の発展に貢献し安全に仕事出来るよう誓い、神事を行っております。

神事が終わってから恒例である若鳶会による纏振り・梯子乗りを奉納。梯子は七メートルと高い所での演技披露となりますが、コロナ感染防止のため、二回行うことが出来ませんでした。二回行うことが出来て名演技を挙行することが出



纏振り

来ました。

顕彰碑には、碑文とし「おおらかに空に舞い つつましく地に臥す 人所を得て徳をなす 徳なければ福を得ず 誇りは天のことわり 然してわれら邦の礎」と刻まれております。

意は、高度な技を活かし危険に挑み、あるいは地道に仕事に取り組む。人にはそれぞれ役割があり、役割を全うしなければ福祿を得ることは出来ません。天職に対する誇りは仕事の源です。実際私たちは、国づくりの礎となっているのだから。との事です。

まさしく鳶の意気と仕事の栄え

る様を詠んだものです。この詩は現在TPSまち創り研究室を主宰されております佐々木孝先生より寄稿されたものであります。

この様に多くの方々の尽力で顕彰碑が建立されたことを忘れることなく、これを心の糧とし親鳶会・若鳶会の会員相互の連携を深め、義理と人情の鳶でありたいと考え邁進していきたいと思っております。



梯子乗り



安全祈願祭

令和四年 小中学校児童生徒による 総社の杜俳句・川柳大会優秀作

本年は地域の小中学校より三八七点の応募作品が寄せられました。
厳正なる審査の結果、優秀作品三十句が選出されました。
感性豊かな素晴らしい作品を是非ご鑑賞ください。

☆ 優 秀

- 初もうで むねが高まる 鈴の音 (川尻小学校五年 津田 莉人)
- 森の葉は 風とともに 旅をする (川尻小学校五年 田中理帆子)
- 初詣^{はつもうで} 家族の平和 願う夜 (川尻小学校五年 工藤 颯)
- こもれびの 鳥のさえざり 緑色 (川尻小学校五年 飯嶋ひまり)
- 一番は 俺だ俺だと 虫の声 (川尻小学校五年 堀川 琉喜)
- 総社の夏 入道雲が 見守る日 (川尻小学校五年 王 桜婷)
- 初もうで 天へとどけと 願う夢 (川尻小学校六年 山田菜々子)
- 総社の木 神をむかえる 天の道 (川尻小学校六年 藤田 巽)
- 総社の夏 あついあついと セミも鳴く (川尻小学校六年 小玉 千歳)
- 太い木々 川尻の歴史を 見つめてる (川尻小学校六年 杉山 葵隆)
- 人々の 思い出集まる 総社かな (旭南小学校五年 佐藤 理沙)
- 澄む川に 御幣流して 夏終わる (旭南小学校五年 小室愛美夏)



大きい木 見守られてる 親がわり
 風吹くと 風と木々たち 会話する
 夢一杯 じんじゃであそぶ 秋田っ子
 木々がゆれ 夏を涼しむ 総社の木
 夕暮れの 総社にひびく 鳥の声
 夏祭り 一本の灯が もりあげる
 夜の空を ゆかた色どる 笑い人
 そよかぜと 共にたびする 総社の葉
 祭りの日 みんな笑顔が あふれてる
 夏の夜 大きな花が 打ち上がる
 夏の夜 空にかがやく 三角形
 帰り道 あつと指さす 春の虹
 秋祭り 鳥居の向こうに 並ぶ出店
 いつまでも 参道明るい 祭りの日
 夏の空 灯す竿灯 友と見る
 夏祭り 総社にひびく 笑いごえ
 揺れ動き 総社の木々が 踊り出す
 浴衣着る 君の姿に 一目惚れ

(旭南小学校五年 榎 穂花)
 (旭南小学校五年 鎌田 柚希)
 (旭南小学校六年 伊藤 莉玖)
 (旭南小学校六年 森川 愛菜)
 (旭南小学校六年 鈴木陽茉莉)
 (旭南小学校六年 加藤 丈)
 (旭南小学校六年 石塚 紗羽)
 (旭南小学校六年 大場 光稀)
 (山王中学校三年 反町 湮)
 (山王中学校三年 早川 真央)
 (山王中学校三年 多可 真央)
 (山王中学校三年 近藤 伽音)
 (山王中学校三年 宮里 昊)
 (山王中学校三年 三戸瑳智弥)
 (山王中学校三年 高村 優衣)
 (山王中学校三年 川村 優樹)
 (山王中学校三年 西川 朋佳)
 (山王中学校三年 金 想太郎)

氷原帯秋田俳句会 菅原孤秋 選



大絵馬の十二支揮毫 一巡を終えて



水墨画作家
飯塚 洋三

平成二十二年の寅年から描き継いで十三年、今年は一巡目の寅年で、その間多くの方から感謝され励まされ、地域との関わり大切さを強く感じています。

絵馬は神仏に成就を祈願するための絵の額であり、正月の伝統行事です。干支の縁起をかついで福を呼び、家内安全や交通安全・進学・スポーツ・結婚などに願いを込めます。

大絵馬は高さ二七〇センチ、巾三六〇センチ、畳六枚分の大きさで国内最大級です。

毎年良質の杉材を準備してくれる宮大工さん、一年間雨露に色落ちしないように上塗り加工してくれる方、奉納日には参道に掲げるまで

の青年部やボーイスカウトの皆さんなど支援してくれる多くの皆さんに感謝です。

年賀状の図柄に大絵馬を選んでくれる人もたくさんいます。もちろん私も心待ちされています。

秋田第三十一団のボーイスカウトでは大絵馬を背にした写真を、日本ジャンボリーで知り合ったイギリスの仲間にしたとの話も聞いています。N T T秋田のOB会報「けやき」、J R東日本「つちぎき」の新年号やこれまで農業共済「かけはし」、秋田県農林水産部「秋田の森林づくり」など新春の表紙絵にもなりました。

令和三年五月のこと、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、神社祭礼行事が縮小や中止される状況でした。

私の旧制中学時代からの友人、小川・平田両君ご夫妻が大絵馬を見物したいとして、横手市から訪れ、神社において私たち三家族で「米寿の年祝いと家族の健康」の祈願を行い

ました。

丑の大絵馬に書いた「天は自ら助くる者を助く」の格言は母校の指針「天佑自助」からの引用です。コロナ禍の中懐かしくも嬉しい一日でした。

秋季例祭が過ぎると、十一月下旬には来年の大絵馬を描くこととなります。二巡目とはいえ八十年代最後の作画と思うと自然に力が入りそうです。

写真で振り返る干支大絵馬 平成二十二年寅年〜令和三年丑年



かのえとら
平成 22 年 庚寅歳



かのとう
平成 23 年 辛卯歳



みずのえたつ
平成 24 年 壬辰歳



みずのとみ
平成 25 年 癸巳歳



ひのえさる
平成 28 年 丙 申 歳



きのとひつじ
平成 27 年 乙 未 歳



きのえうま
平成 26 年 甲 午 歳



つちのとい
平成 31 / 令和元年 己 亥 歳



つちのえいぬ
平成 30 年 戊 戌 歳



ひのととり
平成 29 年 丁 酉 歳



かのとうし
令和 3 年 辛 丑 歳



かのえね
令和 2 年 庚 子 歳

ボーイスカウト秋田第31団の田子と申します。今年度より藤原隆前団委員長の後を引き継いで団委員長を務めています。

長男が小学生のころクラスメートに誘われたのが運の尽き、それ以来親の私も15年ほどボーイスカウト活動に参画している次第です。それまでは職場での人間関係しか知りませんが、ボーイスカウトに係わってから実に多様な、個性的な人たちとつながり、私の生活はいろいろな意味で間違いなく豊かになっていくと思っています。

スカウト(小学一年生から大学生まで)との付き合いにも驚くことが多く、私が子どもの頃に比べ、何としっかりしていることかと、感心す



ボーイスカウト
秋田第31団
団委員長
田子 真

ボーイスカウト活動に係わって



スカウト活動の様子

ることしきりです。これもボーイスカウト活動の賜物と考えています。そのようなスカウトたちを見守る指導者の方々には、まったく頭の下がる想いです。

また、総社神社の川尻宮司を始めとした方々には、常日頃から秋田第31団を始めボーイスカウト活動にご支援いただき、大変有難く思っています。

新米の団委員長として、この紙面をお借りしてお礼を申し上げますとともに、総社神社内にスカウトハウスが存在することが、ボーイスカウト活動をするうえでいかに恵まれていることか、その幸運にただただ感謝している次第です。

特攻花のエピソード

総社神社 宮司

川尻 孝紀

今年の春、ツバサ広業(株)会長の舩谷政雄さんから特攻花(仲田千穂撮影)写真集の本を寄贈いただきました。仲田さんは二〇〇一年(当時十九歳)の頃、大学の講義で特攻隊出撃の話を聞きました。

九州と沖縄の間にある喜界島は大東亜戦争末期特別攻撃隊出撃の中継基地となっていました。

特攻隊員のほとんどは二十歳前後の少年兵でした。沖縄の敵艦に向けてたつた一人二百五十キロの爆弾のみを抱えて出撃して行きました。

往時喜界島に住む娘たちは島に咲く天人菊の花を摘んで出撃する特攻隊員に手渡して別れを惜しみました。

飛び立つ隊員たちは自分と一緒に花を散らすのは忍びないとして、ある者は機上から投げ落とし、ある者はそつと飛行場に置いて出撃して行きました。

講義する先生が学生たちにこの喜界島に咲く天人菊の花を撮

影してみたいと思う者はいないかと尋ねたところ、この話に心震わせ感動した仲田千穂さんは真つ先に手を挙げました。その後喜界島でこの花を毎年撮影することとなったそうです。

喜界島に咲く天人菊の花は終戦後いつしか「特攻花」と呼ばれるようになり今も島に咲いているそうです。

そうしたなか、平成四年に総社神社境内に建立された新風特別攻撃隊忠魂碑の前で毎年斎行される招魂祭において実行委員の佐々木三知夫氏が特攻花の種子を入手栽培して開花に漕ぎ着けました。

神社ではこの特攻花を忠魂碑前に移植して参詣者にも鑑賞していただけるよう環境整備したいと思っています。



特攻花(天人菊)

神道の知識いろいろ

★春日大社

七六八年(神護景雲二年)、称徳天皇の勅命により藤原永手が、

鹿島の武甕槌命、香取の経津主命と、枚岡神社に祀られていた天児屋根命・比売神(天津美津下照姫)を併せ、御蓋山の麓に四殿の社殿を造営し平城京の守護神とした。これが、春日大社の創建であります。

現在、国家・国民の平和と繁栄を祈る祭が年間二千二百回以上斎行されています。

その中でも一千二百年以上続く三月十三日の「春日祭」は、現在も宮中より天皇の御代理である勅使が参向され、国家・国民の安泰を祈る御祭文を奏上されます。

さらに、上旬・中旬・下旬の語源に関わる宮中の「旬祭」、上巳・端午・七夕などの「節供祭」も平安時代に移され、今に至るまで斎行されています。

★若宮神社

平安時代には若宮様が御出現なされ、若宮御殿造営以来九百年近く続

く十二月十七日の「春日若宮おん祭」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

この祭の中で八時間にもおよび御旅所祭は、古代から中世の大神事芸能奉納祭であり、日本古典芸能史絵巻といえます。なお能舞台の鏡板に描かれた松(影向の松)はこの祭に由来します。

★春日大社の御神宝

古来、天皇や上皇の崇敬篤く、また藤原氏の氏神であり関白を始めとする多くの貴族が参拝し、数多くの品々を神様へ奉納しました。

その点数と質の高さから春日大社は「平安の正倉院」とも称されます。総所蔵は約三千点におよび、「国宝殿」で展示しています。

★世界文化遺産

二十年に一度、御社殿を美しくする「式年造替」はこれまで六十回を数え、六十回を越えるのは「伊勢神宮」と「春日大社」のみです。式年造替では国宝の御本殿四棟以外の六十二社の撰社・末社も全て美しく整えます。その他、二十七棟の重要文化財の建

築物があります。

神山を含む約三十万坪の春日大社は世界遺産にも指定され、全国およそ三千社の春日神社の総本社として崇敬されています。

★神山 御蓋山 春日山原始林

春日山、御蓋山は神山のため、春日大神様の御神域を守るため平安時代に狩猟伐木禁止の太政官符が朝廷より出され、現在まで原生林として保たれています。(国の特別天然記念物)

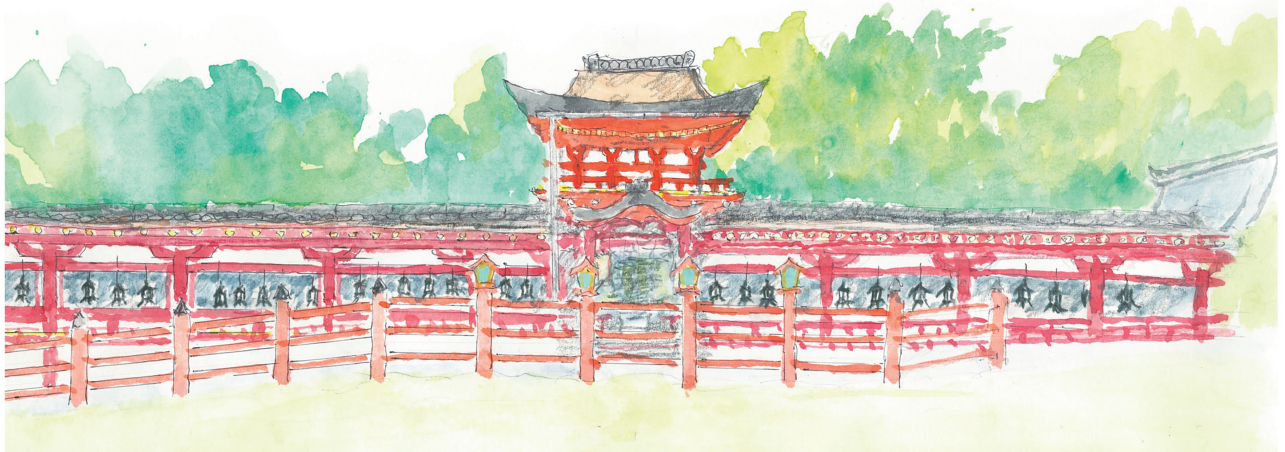
★世界一大切にされる神鹿

奈良時代に神様が常陸国から御蓋山へお越しになる時、白鹿にお乗りになつて来られたことから、春日神鹿は神様のお供であり、神の使いとして大切に扱われるようになりました。

★三千基の燈籠

境内には平安時代より奉納の始まった約三千基の燈籠があります。古くは三百年以上の時を経たものも多数あり、社寺の参道に燈籠を並べる風習は当社から始まったとされます。全国にある室町時代の燈籠の七割近くがここにありま

春日大社ホームページ参考



春日大社中門・御廊 (国指定重要文化財)

あとがき

以前より感染力の強い新型コロナウイルスの変異株の拡大で、これまでも春はもとより秋の例祭や祭事は縮小や中止となっております。そんななかで貴重な原稿をお寄せ下さいました皆さまには心より感謝申し上げます。

編集委員一同が委員長のもとで神社を汚さず香雲の使命を疎んずることなく編集に取り組んでおりますが、一日も早く、

笑い声 自然あふれる

総社かな

(田村咲樹さん作品)

ひびきたす 雅楽の音色

総社かな

(中山実優さん作品)

のようになるよう疫病退散を関係者一同皆さまとともに願っております。

編集委員 (廣嶋禮治記)